

ラゾーナ川崎プラザ「防災フェスタ」で広報活動

神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 白岩一陸尉）は、8月24日（水）、ラゾーナ川崎プラザにて開催された「防災フェスタ」で広報活動を実施した。

自衛隊ブースでは、非常用糧食や災害派遣写真の展示をはじめ、ちびっ子迷彩服試着や、航空機模型展示による広報活動を行った。

当日は、炎天下にも関わらず多くの家族連れが訪れ、展示を興味深く見学していた。特に、迷彩服を試着しての写真撮影は賑わいを見せ、来場者は笑顔で撮影を行うとともに、航空機模型は、大人からも子供まで「（映画）ゴジラに出てる」と注目を集めた。

川崎出張所は、「今後も多くの市民の自衛隊に対する理解を深め、防衛基盤の育成に繋げていきたい」としている。



迷彩服を試着する
ちびっ子と所長

展示ブースの様子

富士総合火力演習研修

神奈川地本カレッジ防衛モニター 一色 啓弥

8月28日（日）、カレッジ防衛モニターとして静岡県のあるイベントである。東富士演習場で行われた富士総合火力演習の研修に参加した。本演習は、陸上自衛隊による戦車や攻撃ヘリコプターの実弾を用いた演習を間近で見ることができ非常に人気のあるイベントである。

当日私たちが到着すると既に会場は超満員であり、一般の方々の本イベントに対する期待の大きさが感じられた。演習は2部構成となっており、前半の部では、陸上自衛隊が保有する戦車をはじめとする様々な装備の紹介が行われた。戦車の強力な火力や迫撃砲の優れた可搬性、対戦車ヘリコプターの機動性など装備の特性をフルに生かした演習はどれも圧巻の一言に尽きる。中でも、目の前で戦車の主砲が発射されたときの轟音と衝撃波は、実際に見ないと伝わらない迫力があつた。

後半の部では、実際の戦闘を想定した演習が実施された。戦車や攻撃ヘリコプターと偵察部隊の連携によって行われる一連の活動は、圧倒的な火力による迫力があつた。自衛隊員の確かな練度を感じさせるものであつた。

今回の演習における観客の多さから、陸上自衛隊の装備や活動に対する関心の高さを感じた。また、自衛隊員の洗練された動きからは、国防という任務に対する責任感の高さを感じ取ることができた。